

## 令和8年度実務経験のある教員等による授業科目シラバス



関西医療学園専門学校  
東洋医療鍼灸学科

分野	専門分野		
教育内容	基礎はり学、基礎きゅう学		
講義名	はり・きゅう理論		
授業方法	講義		
単位数	3単位		
時間数	60時間		
学科	東洋医療鍼灸学科	配当年次	1年
必修・選択区分	必修		
実務経験	はり師、きゅう師の資格をもつ教員が、鍼灸に関する知識と臨床経験を活かし講義を行う。		

講義内容・目標	鍼灸施術の基礎となる科学的治効理論を明らかにして、鍼灸施術のもつ意義の重要性を理解し、鍼灸施術を効果的に行うことができる能力を養う。また科学的思考に立って鍼灸施術をとらえる態度を養い、さらに研究の必要性を実感させることを目指す。		
授業計画	1	第1章 概論 1. 鍼灸施術の意義	
	2	2. 鍼灸施術の特徴	
	3	第2章 鍼の基礎知識 1. 用具	
	4	2. 古代九鍼	
	5	第3章 刺鍼の方式と術式 1. 刺鍼の方式	
	6	2. 刺鍼の術式	
	7	第4章 特殊鍼法 小児鍼	
	8	皮内鍼、円皮鍼、灸頭鍼、耳鍼	
	9	低周波鍼通電療法、頭鍼療法	
	10	第5章 灸の基礎知識 1. 灸の材料～2. 線香	
	11	第6章 灸術の種類 1. 有痕灸	
	12	2. 無痕灸	
	13	第7章 鍼灸の臨床応用 1. 刺激量	
	14	2. 感受性	
	15	3. 鍼灸療法の適応症	
	16	4. 鍼灸療法の禁忌	
	17	第8章 リスク管理 1. リスク管理の基本	
	18	2. 過誤と副作用	
	19	3. 鍼灸療法の過誤と副作用	
	20	4. 灸療法の過誤と副作用	
	21	5. 感染症対策	
	22	第9章 鍼灸治効の基礎 1. 痛み感覚の受容と伝導	
	23	2. 温度感覚の受容と伝達	
	24	3. 触圧感覚の受容と伝達	4. 筋の伸張刺激
	25	5. 鍼灸刺激と反射	
	26	6. 鍼鎮痛	
	27	7. 刺激と反応	
	28	第10章 一般治効理論 自律神経、生体防御機構に及ぼす鍼灸刺激の影響	
	29		
	30	まとめ	

成績評価	筆記試験
評価基準	60点以上(100点満点)

分野	専門分野		
教育内容	総合領域		
講義名	特殊療法		
授業方法	講義		
単位数	3単位		
時間数	60時間		
学科	東洋医療鍼灸学科	配当年次	3年
必修・選択区分	必修		
実務経験	はり師、きゅう師の資格をもつ教員が、鍼灸に関する知識と臨床経験を活かし講義を行う。		

講義内容・目標	本科目の講義を通して様々な鍼灸療法を学び、鍼灸治療の引き出しを増やして、多くの臨床場面に対応できるようになる事と様々な刺鍼療法の体験から毫鍼の刺鍼技術の向上を図る。		
授業計画	1	特殊療法（Ⅲ）	
	2	打管鍼法	
	3	皮内鍼法	
	4	小児鍼法	
	5	小児の灸法	
	6	スキン鍼法	
	7	横刺鍼法：坂井流	
	8	古代中国の刺法	
	9	中国金代の刺法	
	10	杉山流刺鍼手技法	
	11	刺絡療法	
	12	吸角療法	
	13	控刺鍼：簡易控刺法	
	14	澤田流太極療法	
	15	灸頭鍼療法	
	16	棒灸	
	17	押灸	
	18	箱灸	
	19	肢体運動刺鍼法	
	20	体位鍼	
	21	奇経療法	
	22	異種金属療法	
	23	イオンパンピング療法	
	24	本田式下腿三頭筋テスト法	
	25	人迎脈口診	
	26	消炎鍼法	
	27	赤羽氏知熱感度測定法	
	28		
	29		
	30		

成績評価	筆記試験
評価基準	60点以上（100点満点）

分 野	専門分野		
教育内容	臨床はり学、臨床きゅう学		
講義名	臨床東洋医学		
授業方法	講 義		
単位数	4 単位		
時間数	80 時間		
学 科	東洋医療鍼灸学科	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	はり師、きゅう師の資格をもつ教員が、鍼灸に関する知識と臨床経験を活かし講義を行う。		

講義内容・目標	臨床上遭遇しやすい症候・病証に対する現代医学と東洋医学を総合して、鍼灸治療を学習する。		
授業計画	1	臨床東洋医学（Ⅱ）	
	2	肩こり 現代医学的な考え方	
	3	頸肩腕痛 東洋医学的な考え方	
	4	肩関節痛 現代医学的な考え方	
	5	上肢痛 東洋医学的な考え方	
	6	腰下肢痛 現代医学的な考え方	
	7	膝 痛 東洋医学的な考え方	
	8	運動麻痺 現代医学的な考え方	
	9	高血圧 東洋医学的な考え方	
	10	低血圧 現代医学的な考え方	
	11	食欲不振 東洋医学的な考え方	
	12	肥 満 現代医学的な考え方	
	13	発 熱 東洋医学的な考え方	
	14	のぼせと冷え 現代医学的な考え方	
	15	不 眠 東洋医学的な考え方	
	16	疲労と倦怠 現代医学的な考え方	
	17	発 疹 東洋医学的な考え方	
	18	小児の症状 現代医学的な考え方	
	19	スポーツ医学 東洋医学的な考え方	
	20	スポーツ医学の概要	
	21	スポーツ外傷・障害	
	22	スポーツ外傷・障害	
	23	老年医学 老年医学の特徴	
	24	老年者の疾患	
	25	まとめ	

成績評価	筆記試験
評価基準	60点以上（100点満点）

分野	専門分野		
教育内容	臨床はり学、臨床きゅう学		
講義名	臨床東洋医学		
授業方法	講義		
単位数	4単位		
時間数	80時間		
学科	東洋医療鍼灸学科	配当年次	3年
必修・選択区分	必修		
実務経験	はり師、きゅう師の資格をもつ教員が、鍼灸に関する知識と臨床経験を活かし講義を行う。		

講義内容・目標	臨床上遭遇しやすい症候・病証に対する現代医学と東洋医学を総合して、鍼灸治療を学習する。		
授業計画	1	臨床東洋医学 (IV)	
	2	ガイダンス	
	3	頭痛	現代医学的な考え方
	4	顔面痛	現代医学的な考え方
	5	顔面麻痺	現代医学的な考え方
	6	歯痛	現代医学的な考え方
	7	眼精疲労	現代医学的な考え方
	8	鼻閉、鼻汁	現代医学的な考え方
	9	脱毛	現代医学的な考え方
	10	めまい	現代医学的な考え方
	11	耳鳴り、難聴	現代医学的な考え方
	12	咳嗽	現代医学的な考え方
	13	喘息	現代医学的な考え方
	14	胸痛	現代医学的な考え方
	15	腹痛	現代医学的な考え方
	16	悪心と嘔吐	現代医学的な考え方
	17	便秘	現代医学的な考え方
	18	下痢	現代医学的な考え方
	19	月経異常	現代医学的な考え方
	20	排尿障害	現代医学的な考え方
	21	インポテンツ	現代医学的な考え方
	22	まとめ	

成績評価	筆記試験
評価基準	60点以上(100点満点)